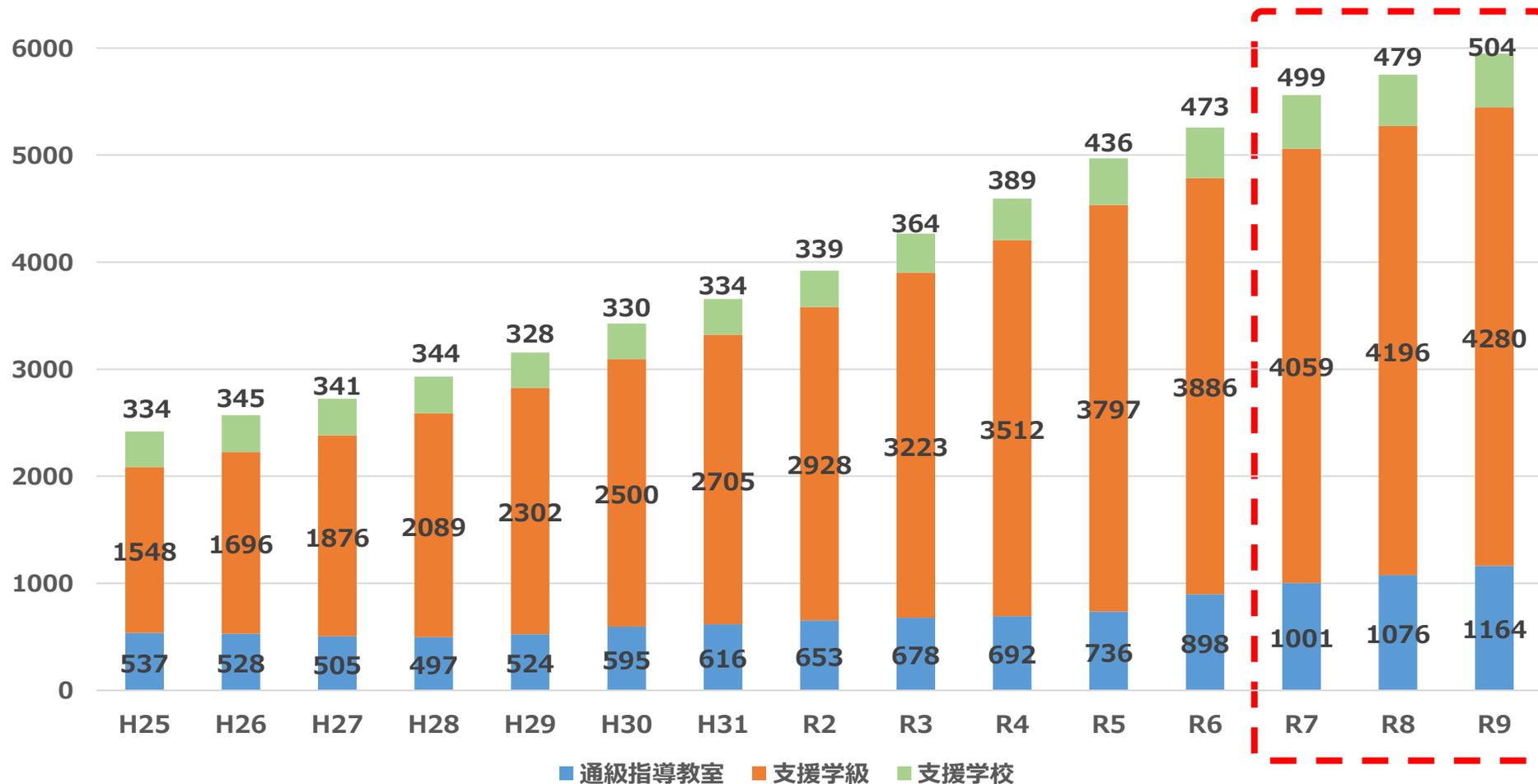


「ともに認め合い、支える」 特別支援教育の充実

■ 本市における特別な支援を要する子どもの数の推移

単位 (人)



※R7年度以降は推計値

(令和6年5月1日時点)

	重点的に取り組む項目	取組内容
1	それぞれの子どもの状況に応じた「学びの場」の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な「学びの場」として通級指導教室の増設置 ・支援学級や通級指導教室等の実践事例を学習e-ポータルや研修で共有 ・保護者に丁寧な情報提供を行うなど、より充実した教育相談の実施 ・学校園における「学びの場」の見直しの実施状況を把握
2	就学前から卒業後までの切れめのない支援や関係部署との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・進学相談等における本人・保護者への十分な情報提供や丁寧な相談の実施 ・中学段階での生徒自身の長所や課題の理解に基づく進路指導やキャリア教育の実施 ・切れめのない支援に向けた中学校区での合同研修を実施
3	教員の専門性の向上やICTを活用した効果的な実践	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい校内支援体制の構築をめざした学校管理職研修の検討、実施 ・専門家派遣研修の実施、通級指導教室担当教員同士のつながりや好事例の共有 ・ICTを活用した教材、教具の積極的な利活用や取組事例を校内・学校間で共有 ・ICTを活用した実践的な研修の検討、実施 ・ユニバーサルデザイン授業の開発、共有

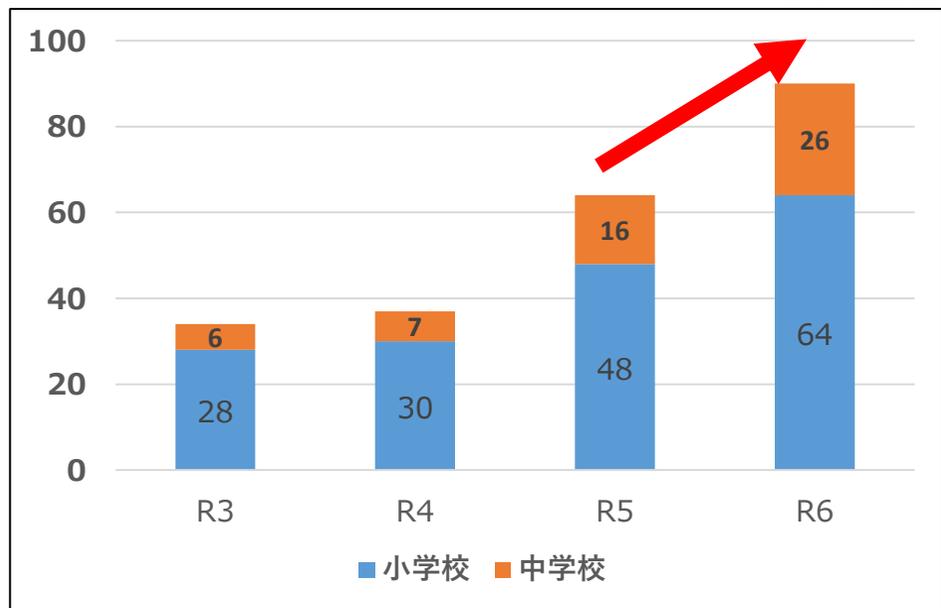
「ともに認め合い、支える」特別支援教育の実現に向けたスケジュール

重点的に 取り組む項目	令和6年度 前期	令和6年度 中期	令和6年度 後期	令和7年度
1.それぞれの子ども の状況に応じた「学びの 場」の見直し	<p>通級指導教室の増設置</p> <p>ユニバーサルデザインにおける取組の好事例・支援学級や通級指導教室等の実践事例の共有</p>	<p>次年度に向けた通級指導教室の増設置の検討</p> <p>「学びの場」の見直しの 状況把握</p>	<p>「学びの場」の見直し内容の周知及び 環境整備や研修内容の充実</p>	<p>通級指導教室の 増設置</p> <p>通級指導教室等 実践事例の共有</p>
2.就学前から卒業 後までの切れめ ない支援や関係部 署との連携強化	<p>関係機関と連携した就学相談や進学相談、進路指導や キャリア教育の実施</p> <p>管理職間連携</p>	<p>中学校区合同研修会 切れめない支援の充実</p>	<p>実情に応じた就学相談等の 内容検討</p> <p>各学校園の授業の相互参観</p>	<p>就学相談等の 実施</p> <p>進路指導やキャリア 教育の実施強化</p> <p>切れめない支援 の一層の充実</p>
3.教員の専門性 の向上やICT を活用した効果 的な実践	<p>ICTを活用した授業の好事例 や学びツールの発信</p>	<p>実情に応じた 学校管理職研修の検討</p> <p>授業におけるユニバーサルデザインのICTを活用した 実践事例の開発、共有、実施</p>	<p>学校管理職研修の実施</p>	<p>専門家派遣研修 の継続実施</p> <p>ICTを活用した実 践的な研修の実施</p>

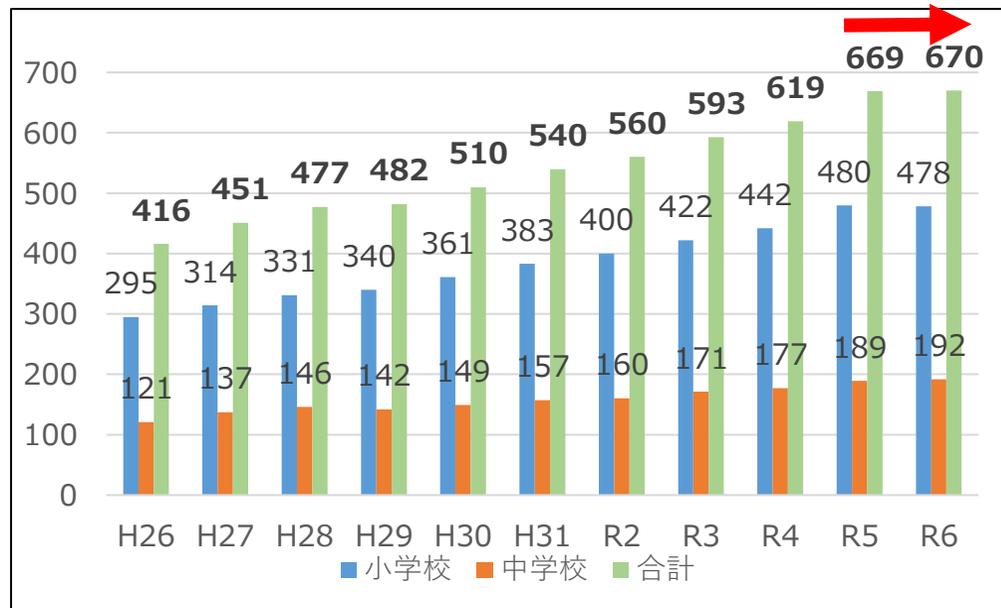
- 通級指導教室を増設置することで、子どもの障害の状況や教育的ニーズ、それらの変化に応じた多様な「学びの場」を整備

● 通級指導教室と支援学級の設置状況

通級指導教室の設置校数の推移 単位（校）



支援学級設置数の推移 単位（学級）



令和5年度から令和6年度にかけて、大幅に通級指導教室を増設置。支援学級設置数はほぼ変わらない。

子どもの状況等に応じた「学びの場」の見直しに向けた取組が進んでいる

- 障害のある子どもへの切れめのない支援を行うため、就学前・就学後の段階に応じた子どもの状況や教員の相互理解をめざした中学校区での取組実践例

取組事例① 泉ヶ丘東中学校区幼保小中合同研修

就学前の幼児期から就学後の小学校、中学校まで、子どもに育まれた資質・能力をどのようにつなぎ、学校園での指導に生かすのかというテーマで、中学校区内の幼稚園・保育所（こども園）・小学校・中学校の教職員が参加し、接続カリキュラムを考える合同研修の取組

事例1「学力に課題のある事例」

小中共通
現状：
・家庭学習の習慣がない（学校の学習のみ）
→ 学習意欲がないわけではない（放課後残って学習様子）
・学習した内容が定着しづらい
・エネルギーに満ちている子が多い

今後実践してみたいこと：
・体験や具体物を使う
・グループで話す機会を設定する
→ 教え合いを大切にす。

まとめ：
・テストの点数が全てではない
→ 「生きる力」が身につけているかに重きを置くことが大切
・成功体験をたくさん作ることで、できるような環境や場を考える。

B 五五

● 説明会に参加した学校管理職の声

- ・学びの連続性についての大切さを研修で改めて感じた。
- ・幼小の接続、小中の接続の大切さへの意識は高いが、今回幼から中までの接続を意識することができた。また、距離感も縮まった。
- ・民間の幼稚園、保育所の参加によって、より教員の意識が高まった。

中学校での事例をもとに、各校種ごとにどのような支援が考えられるのか、進学や進級時の接続を意識した切れめのない指導・支援にはどのようなものがあるのかを具体的に考えることで、校種を越えて相互理解を深める契機となった。

- 障害のある子どもへの切れめのない支援を行うため、就学前・就学後の段階に応じた子どもの状況や教員の相互理解をめざした中学校区での取組実践例

取組事例② 八田荘中学校区小中合同研修

問題行動のある子どもへの支援について、小中学校間で共通した支援や指導の方法を中学校区の教員と一緒に考えることで、切れめのない支援に向けた支援体制の構築をめざした取組



- ・中学校区の教員が合同で、「通常の学級における特別支援」というテーマで研修を実施。
- ・子どもを見る際に大切な視点や問題行動のある子どもへの対応方法等について、グループワークを通じて理解を深めた。

- 障害のある子どもへの切れめのない支援を行うため、就学前・就学後の段階に応じた子どもの状況や教員の相互理解をめざした中学校区での取組実践例

取組事例③ 登美丘中学校区小中合同研修

中学校区の全小中学校に通級指導教室が設置されたことを契機として実施。通級指導教室についての教員への理解促進と、通級指導教室を利用する子どもの小中学校間の切れめのない支援に向けて、支援体制の構築をめざした取組

中学校区の教員に対して通級指導教室の概要を周知。中学校進学後の事例をもとに、小中学校担当教員の効果的な連携や通級による指導の有用性について共通理解を図った。



● 研修に参加した教職員の声

- ・中学校での困り感が少しでも少なくなるように、小学校の間に何ができるかを考えることができた。
- ・中学校での子どもたちがどのように過ごしているのかを詳しく知ることができ、小学校と中学校の違いに戸惑っている様子もあるとわかったので、今後しっかり報告や連絡をしていけたらと感じた。

- 通級指導教室設置校における校内支援体制の充実や通級指導教室の効果的な運用をめざし、教育委員会からの説明と通級による指導の実践報告を内容とした、学校管理職対象の説明会を実施

1. 堺市の特別支援教育



通級指導担当教員配置校における留意事項及びフロー

○説明会の目標

校内における通級指導教室の効果的な運用に向けて

管理職として

- ・通級による指導とは、どのようなものか。主に支援学級とのちがいについて、目的や具体的な指導内容の点から理解する。
- ・通級指導教室の適切な運用に向けて、校内で今後行っていくことを理解する。

本加配は、特別の教育課程による通級指導が必要な児童生徒への指導支援を目的として、配置しています。障害のある児童生徒が通常の学級において、通級指導での学びを生かすことを目的としている通級指導の意義を十分に理解ください。その上で配置校においては、堺市通級指導教室要項（以下、「要項」とする。）に従い、以下のことに留意し、事前の準備を行い適切な活用をお願いします。

【1】通級指導担当教員の運用等について

- （1）業務については、本務校及び兼務校において要項のとおり実施すること。
- （2）指導時間については、本務校及び兼務校での指導時間数をあわせて週20時間程度とし、他校通級の受け入れは行わない。
- （3）教員の選任については、原則、本務校長が、本務校教諭のうちから、要項の各号に該当する者を選任すること。
※校務分掌は、本務校でのみ、要項に定められた範囲内で充てることができる。
※定められた指導時間を実施することのできる計画がある場合は、本務校でのみ校外学習等の引率を行ってもよい。
※学年所属は、本務校でのみ可能とする。



教育委員会事務局から
通級指導教室の概要を説明

●説明会に参加した学校管理職の声

- ・通級指導教室の開設に向けて、スケジュールの見通しをもつことができた。
- ・通級指導教室の指導内容について、理解を深めることができた。

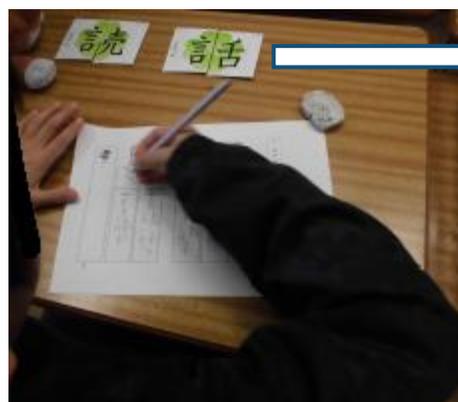
- 通級指導教室設置校における校内支援体制の充実や通級指導教室の効果的な運用をめざし、教育委員会からの説明と通級による指導の実践報告を内容とした、学校管理職対象の説明会を実施

▶ 字形に基づく漢字の覚え方の学習例 書字 形と意味と組み合わせ

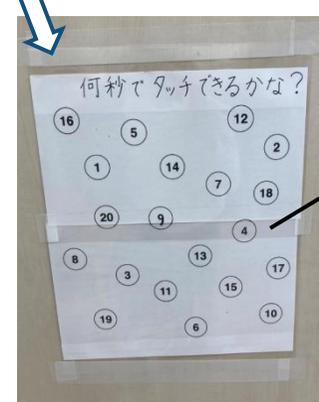


通級指導教室 設置校の実践報告

▶ 見る力を高めるための学習例 何秒でタッチできるかな



漢字を構成する
へんづくりから、
成り立ちを意識
した上で、漢字
を覚えている。



テンポに合わせて数字を
タッチすることで、楽しみな
がら見る力を高めている。

- 障害のある子どもの多様な学び方に対応できるよう児童生徒の状況に応じて、学校生活におけるICTを活用した教材、教具の積極的な利活用ができる環境の整備や場面の設定を進めている



A	B	C	D	E	F
名前	計画	7月4日			
	は無難を意図して弾く	音の大きさがいいぐらいだった	音が弱くように弾く	だんだん弱くなっているからもう少し強くする	強くなる部分を確認する。
	リズムの入りと強さを決めておく	伴奏と入りの合わせがきれいだった	強さをいかに音を合わせよう	強さをいかに合わせる	強さをいかに合わせる
	うまうまに弾ける	できるようになってきた	最後まで無理にできるよにならな	最後まで無理にできるよにならな	最後まで無理にできるよにならな
	おぼえに合わせる	もう、練習してできるようになった	もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな
			もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな
			もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな
			もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな
			もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな
			もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな	もっと、スムーズにできるようにならな

音の大きさがいいぐらいだった

音が続くように弾く

しっかりほかのパートの音色も聞く

自分たちの演奏を動画撮影し、客観的に聞いて課題を見つける

6年生 音楽 「ラバースコンチェルト」



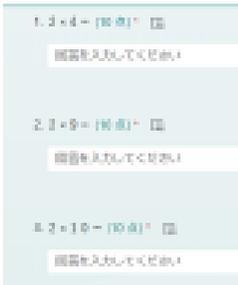
教員の指示への理解や自身の行動を振り返ることに課題がある子どもも、児童生徒用パソコンで撮影した演奏動画を見返して課題を発見するなど、ICTを活用することで通常の学級での学習に取り組むことができる。

- 障害のある子どもの多様な学び方に対応できるよう児童生徒の状況に応じて、学校生活におけるICTを活用した教材、教具の積極的な利活用ができる環境の整備や場面の設定を進めている



かけ算を何度も挑戦

～MicrosoftFormsで～



1. $3 \times 4 =$ (10点) [国]
回答を入力してください

2. $3 \times 9 =$ (10点) [国]
回答を入力してください

4. $2 \times 10 =$ (10点) [国]
回答を入力してください

問題はランダム設定になっているので、開くたびに違う問題の順番になっています。半角、全角両方正解になっています。



回答結果は、自分ですぐに確認できます。



教師側も、どの問題が苦手意識があるか一目瞭然。

Forms複製リンクはこちら↓

1の段

2の段

3の段

4の段

5の段

6の段

7の段

8の段

9の段




子ども自らが選択して楽しみながら学習できるICT学習支援コンテンツを活用することで、計算や書字、読字等に課題のある子どもも、授業の余った時間や朝の時間等に負担なく気軽に取り組むことができる。